2025. 3. 4

コメ価格高騰、落ち着きどころは？

～備蓄米放出も、小売価格は以前の水準までは下がらず～

経済調査部　エコノミスト
藤田　敬史

ポイント

- **全国の多くのスーパーの店頭からお米が姿を消した令和の米騒動。政府は当初、新米が出れば価格は落ち着くとの見通しを示していたが、2,000 円台前半で推移してきた小売価格（1 袋 5 kg）は 4,000 円超えとなるなど高騰が続く**
- **家計の購入数量をみると、お米と並ぶ主食のパンや麺類は概ね横ばい推移のなか、お米は増加。当研究所が実施したアンケート調査でも 4 人に 3 人がお米を好み、世代間の差もほとんどなく依然人気は高い**
- **農林水産省は備蓄米の放出を決定、早ければ 3 月末にも店頭に並び始めるとの見通しで今後、価格上昇が一服するかが焦点。ただし、生産コスト上昇や流通ルートの多様化により、以前の水準まで下がる可能性は低く、小売価格（1 袋 5 kg）の落ち着きどころは 3,300 円程度とみる**

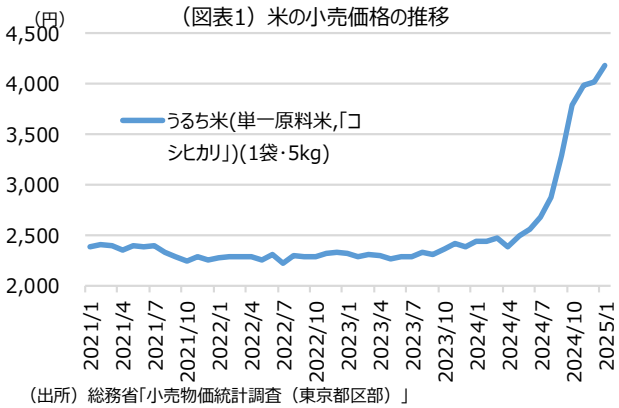
１．お米、価格急騰が続く

2024 年の夏、全国の多くのスーパーの店頭からお米が姿を消した令和の米騒動が話題になった。要因は政府の方針による生産調整、猛暑、インバウンド（外食米需要の増加）などとされている。

お米の価格を川上から見ていくと、農林水産省は JA などの集荷業者がお米を卸売業者に販売した際の新米相対取引価格を毎月発表しており、直近 2025 年 1 月では、全銘柄平均で 60 kgあたり 25,927 円と、前年 1 月と比べて 69%上昇している。これは 2006 年の調査開始以来、最も高い金額で、新米の流通が本格化した 2024 年 9 月から 5 ヵ月連続で最高値を更新している。

また、川下の小売価格（1 袋 5 kg）は 2024 年半ばまで 2,000 円台前半で推移してきたが、夏場以降上昇基調となった。政府は当初、新米が出れば価格は落ち着くとの見通しを示していたが、その後も上昇を続け、2024 年 12 月には 4,000 円を超える水準まで上昇、足元 2025 年 1 月時点では 4,185 円と前年に比べ 1.7 倍となっている（図表 1）。総務省が毎月発表している消費者物価指数をみると、お米に関連した牛丼やすしなどの外食や、おにぎりなども価格上昇が続いている。

（図表1）米の小売価格の推移



（出所）総務省「小売物価統計調査（東京都区部）」

ふるさと納税でもお米は人気で、新米が出回り始めた 2024 年の秋にも申込みが殺到し、早々に受付を停止した自治体も

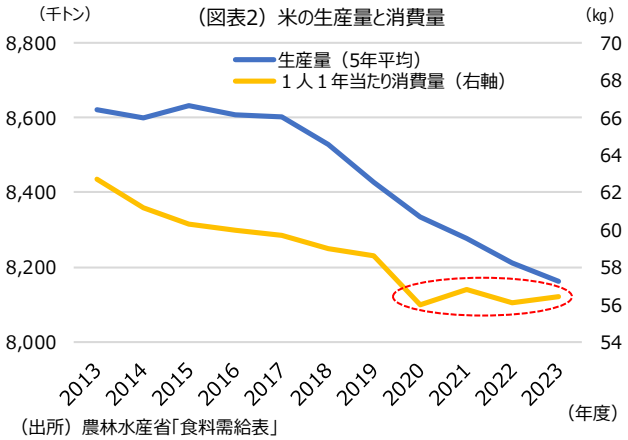
ある。

２． お米の消費量は減少基調から横ばい推移へ、高値が続くなか家計の購入数量は増加

農林水産省のデータによると、お米の生産量は減少基調が続いている一方、消費量は減少基調が止まり、2021 年度から 2023 年度は横ばいで推移している（図表 2）。農林水産省は 2 月 19 日に 2025 年の全国のコメの作付け面積は全国で 129 万 6,714 ヘクタールになる見通しで、2024 年と比べて 3.1%増える見込みと発表した。

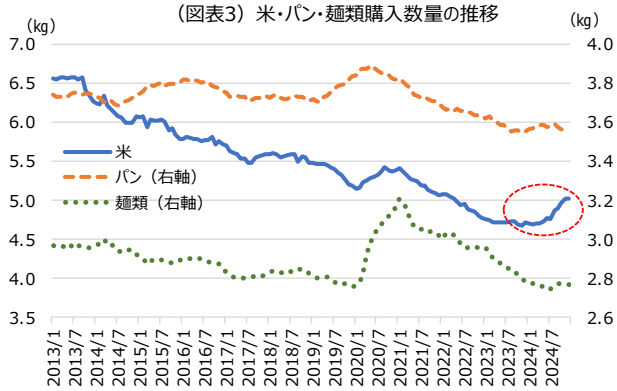
家計の消費支出の数量を品目別にみると、お米とならぶ主食であるパンや麺類が概ね横ばい推移となるなか、お米は増加に転じている（図表 3）。高騰が続いているとの報道が相次ぎ、消費者心理から買いだめしている可能性もあるが、当研究所が実施した都道府県別ライフスタイルに関するアンケート調査では、「お米とパンどちらが好きですか」と質問に対し、「お米が好き・どちらかといえばお米が好き」との回答が全国平均で 75.7%と 4 人に 3 人がお米好きと回答している（図表 4）。また、世代別にみても Z 世代（18～28 歳）74.0%、Y 世代（29～44 歳）75.8%、X 世代（45～65 歳）77.3%と世代間差はほぼなく、お米の人気は依然高い。

（図表2）米の生産量と消費量



（出所）農林水産省「食料需給表」

（図表3）米・パン・麺類購入数量の推移



（出所）総務省「家計調査（2人以上世帯）」　※12ヵ月移動平均

３． お米の小売価格、落ち着きどころは？

農林水産省は 1 月、これまで不作による供給不足が生じた場合や、震災など緊急時に限っていた備蓄米の放出について、流通が目詰まりを起こしている場合に買い戻し条件付きで放出できるよう運用指針を見直し、2 月に放出を決定した。農林水産省は行方不明とする 21 万トン分に対し、3 月 10－12 日に大手の集荷業者を対象に、入札を実施して備蓄米 15 万トンを売りわたす。早ければ 3 月末にも店頭に並び始めるとの見通しを示している。今後、お米の価格上昇が一服するかどうかが焦点となる。

（図表4）お米が好き（米orパン）

【質問】米とパンどちらが好きですか。（単一回答）
※選択肢：「米が好き」「どちらかといえば米が好き」「パンが好き」「どちらかといえばパンが好き」「どちらも好きではない」

順位	都道府県名	米が好き・どちらかといえば米が好き（%）
1	山形県	87.1
2	福島県	84.9
3	新潟県	83.9
4	宮城県	81.7
4	秋田県	81.7
4	島根県	81.7
4	福岡県	81.7
4	長崎県	81.7
9	岩手県	80.6
9	茨城県	80.6
9	神奈川県	80.6
	全国平均	75.7

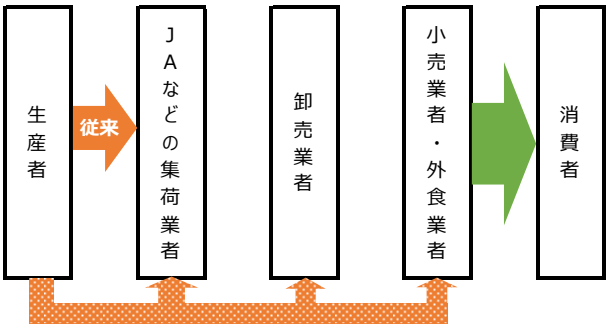
（出所）明治安田総合研究所「都道府県別 ライフスタイルに関するアンケート調査（2025年2月）」

ただし、生産コストの上昇や価格転嫁マインドの高まりもあり、小売価格が以前の価格水準まで下がる可能性は低いとみる。また、従来、生産者は JA などの集荷業者に出荷していたが、その割合は低下基調（2015 年産米 43.1% → 2022 年産米 39.0%）となっている。卸売業者や小売業者・外食業者が直接生産者から調達するなど流通ルートが多様化（図表 5）しており、農林水産省が流通量を把握しきれない要因にもなっている。

新米相対取引価格（60 kg）は、2021 年産米の 1 万 2,804 円をボトムに、2022 年産米は 1 万 3,844 円、2023 年産米は 1 万 5,315 円へ上昇していたなか、2024 年産米は 24,055 円と急騰している。光熱動力や肥料などの農業

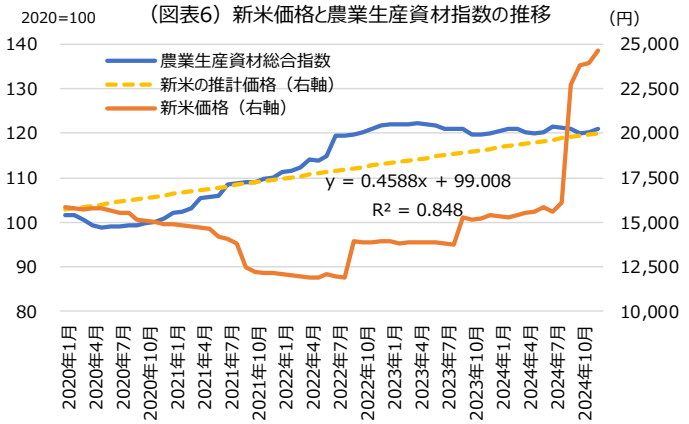
生産資材価格指数は上昇しており、それらの生産コストをベースとした新米の価格は 20,000 円と推計される（図表 6）。それをふまえたお米の小売価格（1 袋 5 kg）は 3,300 円程度が落ち着きどころとみる。

（図表5）米の流通ルート



（出所）各種資料より明治安田総研作成

（図表6）新米価格と農業生産資材指数の推移



（出所）農林水産省「米類の取引に関する報告、農業物価統計調査」より明治安田総研作成

本レポートに関するご取材やお問い合わせは以下までご連絡ください

明治安田総合研究所 エコノミスト 藤田 敬史

電話番号：03-6261-7947

e-mail：takafumi.fujita@myri.co.jp

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●発行元●　株式会社 明治安田総合研究所　　〒102-0073 東京都千代田区九段北3－2－11 TEL03-6261-6411